

令和３年度第２回 徳島県スポーツ推進審議会 議事録

I 日 時

令和４年３月９日（水） 午後２時３０分から午後３時４０分まで

II 場 所

徳島グランヴィリオホテル １階

III 出席者

【委 員】２０名中１７名出席

分木秀樹会長、佐藤充宏副会長（リモート）、安藤七海委員（リモート）、
大阪真智子委員（リモート）、岡部裕子委員（リモート）、幸田貴美子委員、
高杉繁樹委員（リモート）、土岡美紀委員、鶴真美委員（リモート）、
中井優子委員、吉野誠委員、中田恵莉子委員（リモート）、
永原レキ委員（リモート）、西村洋子委員、村上亜弥子委員（リモート）、
山口鉄生委員（リモート）、米本元子委員（リモート）

【事務局】未来創生文化部副部長、スポーツ振興課長、スポーツツーリズム推進室長
体育学校安全課長、ダイバーシティ推進課長ほか

IV 内 容

開会

議事

- （１）令和４年度スポーツ関連施策について
- （２）「徳島県スポーツ推進計画」の進捗状況等について
- （３）「徳島県スポーツ推進計画」改定方針の検討について
- （４）その他

閉会

《配付資料》

- | | |
|----------------------------|-----|
| ○ 令和４年度スポーツ関連施策について | 資料１ |
| ○ 徳島県スポーツ推進計画の進捗状況等について | 資料２ |
| ○ 第３期スポーツ基本計画（答申素案）【スポーツ庁】 | 資料３ |
| ○ 第３期スポーツ基本計画（概要）【スポーツ庁】 | 資料４ |
| ○ 第２期徳島県スポーツ推進計画 | 資料５ |

V 議事録

開会

☆会長

会場では、開会前に、今年度開催されました東京2020オリンピック・パラリンピックの聖火リレー等の動画を上映しておりました。参加されました委員より一言ご感想をいただけますでしょうか。

○委員

私は徳島県内で開催された、パラリンピック聖火フェスティバルの出立式と、東京都内で開催された、パラリンピックの聖火リレーに参加しました。コロナの影響で非常に困難な状況だったんですけど、そんな中で出来る方法を模索して、心ひとつにして取り込むことの素晴らしさを実感しました。

特に都内の聖火リレーにおいては、参加することにネガティブな感情とか恐怖心、葛藤が拭いきれないという方も少なくないなと感じましたけれども、何のために参加するのか、コロナ禍でやることの意義は何なのかと各自が考えること自体がとても大事なことだったんじゃないかなと感じています。

私自身選手時代に、なかなか車いすテニスの認知度を上げられなくて、地域とか周りを巻き込んだ活動ができなかったぶん、徳島県内のたくさんの方によって生み出された聖火は、とても大切なものとして感じられました。実際パラリンピックの開会式では、私が選手時代に娘のように可愛がっていた車いすテニスの上地結衣選手が、最終戦から聖火ランナーとして登場した時には、これまでの色々な思いとか経験が一つに繋がったように感じられて、こみ上げるものがありました。自国開催のパラリンピックで貴重な機会を与えて頂けた事に、非常に感謝しております。ありがとうございます。以上です。

☆会長

ありがとうございました。

○委員

皆様こんにちは。僕もありがたいことに、自動車のトヨタさんからのスポンサー枠ということでご指名いただいて、オリンピックの聖火ランナーを務めさせていただきました。

僕が今回の聖火ランナーに参加させていただけた経緯としては、オリンピックのこ

のロゴですね、組市松門。オリパラロゴが藍色になって、そのロゴの制作者である、野老朝雄さん。テーマカラーとなった藍の日本一の産地は徳島ということで。スポーツは全然かけ離れたように思いますが、徳島県の伝統産業としての藍で、僕は元々サーフィンをやってきたことで、藍とサーフィンっていうスポーツを掛け合わせた取り組みをやってきた中で、おそらくサーフィンも今回のオリンピックで正式種目になり海陽町がそのメッカでもあり、藍は日本一の産地であり、オリンピックに関係するその藍とかサーフィンと関わりのある活動してきた自分の活動が聖火ランナーに参加する機会のきっかけとなったと思います。

オリンピックのエンブレムのデザイナーさんとのサーフィンの波乗りジャパン、サーフィンの代表選手の組織のオフィシャルウェアを藍色にするとか、そのロゴを野老さんに手掛けていただくとか、こういった企画もプロデュースさせていただいて実現したり、伝統産業とか自然環境とかスポーツっていう枠を超えて繋げるっていう事を、今回できたのも凄い一つ良い経験になりました。

その上で、オリンピックの聖火ランナーにも選んでいただけるということで、かなりいい、この5年間、本当に色々大変でしたが、やってきたことがさらに弾みがつくというか、更に次に繋げていくために必要な経験をさせていただいて、聖火ランナー、ちなみに走行させていただいた吉野川の橋の上ですね、西条大橋の上を走ったんですけど、海陽町出身なので最初海陽じゃないのかなと思ったんですけども、実際走ってみて、阿波藍の文化を育んだ吉野川の、本当真上を聖火を持って走らせてもらったんですけど、何か、その県南部の海洋民族と徳島の吉野川であたり剣山関係の山間民族が繋がって、徳島から日本に、阿波藍はじめいろんな文化を発信した、昔の先人たちを思いながら吉野川のこの景色を見ながら、オリンピックって賛否両論あったんで本当大変だったけど、本質的にはその世界、ギリシャから、世界の平和を祈る人たちが彼の心が生み出した国際的なスポーツの祭典なので、ほんと世界平和とか自然環境も含めて、社会とか個人の平和っていうのを祈る一大イベントなんですけど、まあそれを象徴する聖火っていうのを持ちながら、徳島の故郷の象徴する吉野川大橋を走れたって、本当僕にとってはすごい一生忘れることができない、貴重な時間でした。

これをきっかけに、まだこれから課題があるので、皆さんと一緒に、スポーツや文化の枠を超えて、いろんなふるさとの自然環境が、より良い未来への発展に貢献できる活動を続けて参りたいと思います。長くなりましたが以上です。

☆会長

ありがとうございました。本日ご欠席の委員からもコメントをいただいております。

ご披露をお願いします。

(事務局)

コメントを読ませて頂きます。

聖火リレーを経験させて頂き、私自身地元で走らせていただく事に感無量でした。
また、県民の皆様には、このような状況下でも想像以上に沿道にお集まり頂き、皆様の期待を感じるとともに、改めてスポーツのもたらす力を感じました。以上です。

☆会長

ありがとうございました。東京オリンピックパラリンピックを通じて、県民の皆様
に夢と希望がもたらされたと思います。

それでは議事に入ります。まず、事務局より、

議事(1) 令和4年度スポーツ関連施策

につきまして説明をお願いします。

◆事務局

資料1に基づき説明

☆会長

続きまして

議事(2) 「徳島県スポーツ推進計画」の進捗状況

につきまして説明をお願いします。

◆事務局

資料2に基づき説明

☆会長

続きまして

議事(3) 「徳島県スポーツ推進計画」改訂方針の検討

につきまして説明をお願いします。

◆事務局

資料3に基づき説明

☆会長

ただいま事務局より説明がありましたこのことにつきまして、ご質問ご意見をお受けしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○委員

今後の推進計画といいますが、これから作る上で、現在スポーツ庁の方で、新しい、第3期スポーツ基本計画が立てられている中で、どう擦り合わせるかということが非常に大きな課題だと思っています。大きな要望として、二つほど今回挙げさせていただこうと思ってるんですが、今回は前回に比べて非常に、スポーツの力、あるいは価値、地域というスポーツの文化、こういったものをどういう風に、基本計画に沿った形で計画に落とし込んでいくかっていうところが、非常にテーマになっていると思います。そういう意味では、従来の、その地域のスポーツ団体といいますが、組織といいますが、その構造といいますが、そういったものを、そういった課題に対して、どの様に改善していくか、あるいは改革していくのかっていうのが、大きなポイントになるんだと思います。レガシーにしても、ガバナンスコードにしても、国からいろんな政策が出てますよね。例えばスポーツリズムなら観光庁から、スポーツツーリズム推進基本方針が出てますし、そういった面ではスポーツコミッションなんかの組織づくりも、今後推進していかなくちゃいけないと思っています。

1点目は、ここのところをどういう風に進めるかですけども、当然今までは、個人のスポーツを支援するというのが、基本のスポーツ政策だったんですけども、完全にこれはスポーツというか、地域に対してスポーツは何が貢献できるかみたいなところなわけですね。そうすると横断的な組織を使わざるを得ない。スポーツコミッションそのものがそうですし、当然、経済界あるいは観光関係の人とか、宿泊関係の方、スポーツ関係の方、あるいは地域住民の方も含めて、横断的な形で推進する組織が、非常に重要になってくると思います。そういった面では、1点目としては、そういったものをやる上では、いかに県の方針として、計画を立てた上で、たとえば、県南の方、右下の関係の観光ツーリズムがあるわけですけども、そういった団体がいろんな形でスポーツも含めて関わっていく、中域的な連携体制の協議会、こういったものが必要になってくると思いますね。いわゆる市町のレベルの、自治体の枠組みでやっちゃうんじゃないくて、ある程度、域といいますが、南部域といいますが、そういった圏域といったレベルでの発想とか支援を考えざるを得ないんじゃないかと思います。当然、徳島の場合は南の方に、サーフィンとかカヌーとか、いろいろなスポットがありますから、スポットをつなぐ、巡回するであったり、連携するであったり、そういったイメージっていうのが非常に重要で、そこで観光ツー

リズム的なわけですが、そこにスポーツはどのように組み込んでいくかってことは、それぞれが発案できて、具体的なその姿できるようなそういう体制づくりが必要ではないかと。にし阿波ツーリズムとかもありますし。徳島は西地区、南地区とか分かりますので、その中流域での中間的な組織ですかね、そういったところが重要になってくると思うので。

もう一点要望としては、僕も携わってこれから大きな関所だなと言いますか、課題かなと思っていますのが、誰でもアクセスできる環境づくりということで、中学校の運動部の話になります。

令和5年度ですから来年の4月には、土日の部活動はそれぞれ地域から外部指導者を入れていくって形で今後新しく出てくるんですが、それに合わせて運動部とそれから総合型地域スポーツクラブ、それからスポーツ少年団、これに加えて民間のスポーツクラブ関係を含めて、中学校の運動部をどのように改善していくのか、連携していくのか。

最初の頃は多分、土日の外部指導者の導入だと思いますけども、これをいくつかやるようなら、それをいずれ地域との連携の中で、新たな環境整備をするというのが大きな中長期的な。これを進めるのは、多分一筋縄ではいかなくて、それぞれ立場も違いますし。

まずはデータっていうのが必要で。例えば今回の部活の話もそうなんですが、要するに人口は減少していく中で、中山間の中学校、小学校ではもうすでに、少年団もそうですが、チームスポーツはできない。子どもがいないから。そういう環境はどんどんと広がってる中で、そういう子供たちのために、基本計画で「スポーツは基本的な権利だ」と謳う中で、どう公共的にそれを支援するのかということが、求められてくるわけですよ。そういった面では、学校だけではできない、地域だけでもできない。連携取りながら、知恵を出していかないと、かなりそういった子供たちの環境整備は、非常に難しくなってくる。

ですから例えばこれから5年間のうちで、どの程度部活動が減るのか、また、子どもが減るのか、そういった中で地域ではどんな資源があるのか。当然少年団の方も、指導者資格は全員取らせるように制度改革をして、新たなそれに合わせたビジョン、それぞれの団体で改革のビジョンが出てくると思います。それを突き合わせながら、それを睨みながら、県の状態を理解して、県としてどんな風に進めてていくかっていう、これをやらなくちゃいけないので。

まずはやっぱりこの第3期にあります基本計画では、実態調査と共にそういった多種多様な関係する団体が、同じステージ、プラットフォーム上でそういう問題を考えながら話し合う場を作っていかななくちゃいけないと思います。それは多分教育

委員会さんが中心にはなると思うんですが、これがまた難しいところで。県の方はいろいろな課があって、それぞれ連携が非常にやりやすいと思うんですけど、これが市町の教育委員会におりてくる時、教育委員会のスポーツ振興課の中に、例えば生涯スポーツ担当の職員の方がいらっしゃって、その方に全てのしわ寄せが来るじゃないですか。じゃあ誰がこの事業を、中心で旗振ってくれるのって、この前のスポーツ協会の会議でも同じこと言ったの。誰が降るんでしょうかって言った時に、結局は市町の教育委員会さんの担当教職員だけでは動かせない。非常に難しい問題があるので、こういったところは県の方で大きな枠組みとか、推進、いわゆる進め方のグランドデザインとか、そういったものを設計した上で、地域の担当者、あるいは広域スポーツセンターのようなもの、そういった職員の方々がサポートに入りながらやってかないと、多分これは実現できないと言いますか、逆にあの荒らされると言いますか。国がやれって言ったからやり始めたらぐちゃぐちゃになっちゃったってことになりますので。あくまで国は答申は出しますが、県としては、県の実態を理解した上で、県としてふさわしい政策を打ち立てていくようにするために、特にこの一年目の段階では、そういった話し合う場面と、まずはきちんとしたデータを取るということが僕は重要になってくると思います。以上2点よろしく願いします

◆事務局（スポーツ振興課長）

はい。ありがとうございます。委員の方から、次期計画策定にあたって、まずは実態調査と共に問題を検討するべきというような、計画を策定するにあたっての大前提の取り組みということでお話をいただいたかと思います。

まずはお話色々いただいたところでございますけれども、やはり、前回の策定時からオリンピックも終わり、そして地域に様々なスポーツの像というのが求められている時代になってきております。その中で、委員がおっしゃったように、国から渡されているものをそのままストンと落とし込めればいいんですけども、やはり地域地域ごとに実情が異なるというようなことが入ってまいります。県としても実情が異なるし、お話にもありましたように市町村ごとにもかなり状況は変わってくる、異なってくるのかなというところでございます。やはりお話しいただいたのは、様々な団体の連携が必要という事でございまして、例えばスポーツツーリズムでありましたら、スポーツツーリズムの関連団体、それからクラブの地域移行については、それに関係する団体は多分重なっても来ることにはなってくると思うんですけども、それぞれ知恵を出し合う場、そしてその旗を振る人が必要ということでご意見を頂戴したところでございます。

策定にあたりましては、また皆様方にご相談もさせて頂きながら、実態調査をどのような形で実施するのがいいのか、それから市町村を巻き込んで、また県教育委員会、市町村教育委員会も巻き込んで、どのような形でこの問題を検討すべきかというのを我々の事務局の方で検討し、研究して次回、来年度のまたこちらの場で計画を実際に作成するにあたって、どのような形で研究ができるのかというのを示していきたいなというふうに考えてございます。またスポーツツーリズム等の話につきましては担当の方に回します。

◆事務局（スポーツツーリズム推進室長）

委員の方から1点目、スポーツだけに限らず、コミッション等の組織を活用して地域経済の活性化、そういうところまでも踏み込んだもの作っていく必要があるのではないかとことをいただいております。

まさしく委員のおっしゃるとおりでございまして、資料2ページ目の3今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む施策のうち⑦ですね。スポーツによる地方創生まちづくり等でも記載しているところでございます。

徳島県におきましても2020年8月3日に、徳島県スポーツコミッションを設立しまして、今年度は合宿に来ていただける方に、補助金を出す、そういう制度等の創設をして、スポーツツーリズムにも取り組んでいるところでございます。併せまして、延期になってしまいましたが、ワールドマスタースゲームズ、2026年に延期の方向で調整中ではございますが、そういう大会を目指して海外から来られる方のスポーツツーリズムの受入につきましても各地域の方々、市町の方、そして競技団体の方と調整をしているところで、連絡調整及び情報共有もしているところでございます。

先ほど委員の話もありました、南の方ではサーフィン、そして西の方ではラフティング、この二つがオープン競技にもなっておりますので、徳島の文化とともに、このPRをしていって今後地域活性化にもつなげて参りたいと思います。おっしゃるような視点も含めまして、その計画の策定して参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上でございます。

◆事務局（体育学校安全課長）

ただいま、委員から週末の部活動地域移行についての話もございました。現在スポーツ庁からの地域移行に向けての動きに合わせまして、徳島県でも県立中学校3校と、それから小松島市の中学校におきまして、試行として地域移行を実施しております。しかしながら、実際としましては、その受け皿となります所の確保に、非常に苦労しております。その中のほとんどは、中学校の教員が、土曜日、日曜日に関しまし

ては、中学校の教員という肩書きから外れまして、地域の指導者として教えているというところがほとんどでございます。そうじゃないところもあるんですけども、なかなか都会のように受け皿が確保できていないという部分がございます。その中で今年度、アンケート調査等も行いまして保護者それから生徒これから学校にも地域移行に向けての課題であるとか、意見であるとか、そんなのも、お聞きをいたしました。特に教員の働き方改革の面からは、非常に有効であるという風なご意見も頂きましたが、特に保護者生徒からの課題といたしましては、地域移行になった時に、地域のクラブスポーツとして、スポーツチームとして、全国大会に出られないのでは意味はないのではないか、という意見がありました。本日の読売新聞では、日本中体連の方が、全中大会において、スポーツクラブでも出られるように、前向きに検討するというような記事も載っておりまして、スポーツ庁、それから日本中体連におきましても、その辺りの解決に向けて動き出してはいるのかなと思っております。

けれどもなかなか現状のルールがすぐ変わっていくというわけでは ありませんので、乗り越えなければいけない、解決しなければならない課題というのは依然として多いものがあるのかな、というふうに考えております。

来年度でございますけれども、小松島市は、地域移行を実践研究をする学校を増やすことを、検討していただいておりますが、その他の市町におきましては、声をかけてお願いをいたしましたけれども、今のところ手を上げてくれるところはございません。県立中学校におきましては、1校、別の競技においておいて、フェンシング競技におきまして、フェンシング協会の方の協力を得て、地域移行の試行を考えてもいいかな、というふうにいただいております。

そんなふうに、地域のスポーツクラブはもちろんですけれども、各競技団体等も、しっかり協力をして頂きながら、受け皿作りというのは、進めていく必要があるのかなというふうに考えております。この部活動の地域移行が進んで、学校の教員が部活動等から離れていきますと、県教委としても心配しておりますのは、各競技団体等が主催している大会が、現在学校の教員等が役員、それから補助員として活躍していると思うんですけど、この方達なしに、成り立っていくのかな、というふうな心配もしております。ですので、部活動をなくして地域移行全てをクラブに回した時に、県全体の各競技、これがこのままでは成り立っていかないのかなというふうな懸念もございますので、この辺りにつきましては、長い時間をかけて、解決していくべきものであるとも思いますし、スポーツ庁も、これは絶対やるのだというふうに私も聞いておりますけれども、果たしてこれが言葉通りにできるかどうか、どのくらい時間がかかるのかどうかというところも、未知数の部分もあると考えて

おりますので、その辺りの中央のこれからの方向性等はしっかり見ながら、徳島県としてどういうことができて、どういう課題があって、そのために何をしなければいけないのかと言うなことを、しっかり把握しながら、一つずつ進めていくことが大切なのかなというふうに考えております。以上でございます。

☆会長

よろしいでしょうか。

○委員

ありがとうございました。非常にハードルが高いんですけど、やっぱり大切なのは、中学生一人ひとりの子どもたちにとって、スポーツができる環境づくりをしていくという大原則があると思います。その部分に対して、我々何ができるのかというところ、それぞれの団体でも共通的に理解していただいて、共通目標の下で、出来る範囲内での回復ですね。

別に僕も、部活を全部出せとは思ってません。役割分担だと思ってますので。当然その地域ごとに課題があると思いますし、その辺りはやはり地域ごとで、考えて動くしかないデザインがあって、それをいかにうまく作っていくこと、県で作ったものは、そのままではないですから。やっぱ現場でのそういうところ、今回教育委員会でやられたようなこと、学校で中心になってやるのか、それとも地域の教育委員会でやるのか、その辺りも含めて、子供たちの生活空間上での関わってる団体同士なので、話し合う場面が一番重要になってくるんだと思います。

そういう点では、今後僕も懸念しているところです。本当に、下手するとぐちゃぐちゃになってしまうということがありますので、この辺り慎重に進められるように、県の方でも、しっかり方針と共に、具体的なスケジュールといいますか、変更スケジュールですね、どこまでができて、どこまでできないのかっていう、案でも含めてですね。つめていただけたらと思います。ありがとうございました。

あと1点、中学校の運動部なんですけど、これは僕は特別支援学校も含めてだと思ってますので、是非特別支援学校も今回、いろんな生涯スポーツの連携の授業を進められておりますが、それを継続しながら、特別支援学校の運動部も、やっぱりその地域との連携の中で、その子達にとって、重要なスポーツ環境整備するかという視点から、継続的にやっていただけたらと思います。ありがとうございました。以上です。

☆会長

ありがとうございましたまた。来年度、推進計画策定時には色々ご意見をいただければと思います。ありがとうございました。他にご意見、ご質問等ございませんでしょうか。お願いします。

○委員

私からは3点、意見述べさせて頂きたいんです。まず1点目は、オンラインスポーツの推進についてです。12の施策の中の2番に当たると言うんですけども、今年度あいあいクラブでは、県や徳島スポーツ協会の事業の一環としまして、オンライン教室、オンラインスポーツの取り組みを行ってきました。コロナであるとか、過疎地域で、このオンライン会議もそうなんですけれども、海陽町って県南から遠方の地域にとっては、とても有効な手段だと思っております。県南の総合型スポーツクラブを核として オンラインスポーツの取り組みが今後もですね、活発に継続して続けていくことを望んでるんですけども、実際、他のクラブでは、実施したくても、インフラであるとか、オンライン機器が整備されていなかったり、後、操作方法がちょっと不安だ、わからないっていう方もいらっしゃって、そういう声も誰か聞かれるんです。このようなことから、すべてのクラブにとは言わないのですが、インフラ整備であるとか、オンライン機器の配置をお願いしたいなと思いますので、併せて操作方法であるとか、留意点などが説明できるような人材の派遣を、合わせてお願いしたいなと思います。これが1点目ですね。

あと2点目はですね、若者の地域への参画についてですけども 私どものクラブでは、今年、スポーツ協会の事業で、東洋大学の学生と、クラブの子どもの教室との交流があったんですね。どういうものかといいますと、今コロナ禍なので、オンラインでの開催になったんですけども、学生が運動プログラムを始動するんですけども、スクリーン上で映し出された授業内容に、こっちで子供たちが、プログラムに参加するといった授業なんですけど、当初はどうなるかなとちょっと不安もあったんですけども、すごく盛り上がりまして、子供たちも、お兄さんやお姉さんとの交流がとても新鮮で、すごい楽しんでいました。大学の学生さん達も、生き生きと盛り上げようとも必死に頑張ってくださいって すごい楽しい授業になりました。

後、別事業で、隣町の牟岐町の賑わい産業祭っていうのに、ストレッチの講師として体験教室をさせていただいた時に、二十歳ぐらいの若い子がたくさん珍しく体験してくださったんで、聞いてみたら、京都産業大学と徳島文理大学の学生さん達だったんですね。牟岐町では防災とか食の観点から若者との関わりを持って、地域の活性化の取り組みを行っているらしくですね。その日は、その取り組みの発表とか、

あと学生たちが開発した、商品販売なんかがありまして、学生たちが、すごい生き生きとあの地域で働いて、販売してるのとか見てね、私たちも、なんかこうパワーをいただいて、すごくいい光景だなと思ったんです。なのでもっと若者が、地域のスポーツ推進に関われるような仕組み作りを行っていたり、事業が行えるような、これからもですね、東洋大じゃないですけども、こういった交流の場ができればなってすごく思いますので、こういうのも検討いただければと思います。

あと3件目なんですけれども、昨日、南部の地域の会議の委員として出席させていただいて、そちらでも、意見を述べさせていただいたんですけども、近隣の市町村が、連携したスポーツ推進作りっていうのか、これからは大切になってくるのかなと思いますので、そのことについて述べさせていただきます。

南部の振興計画の中にも記載しております健康寿命の延伸であるとか、スポーツツーリズムの消費拡大とかですね、スポーツや健康づくりを単一の市町村だけじゃなくて、広域圏市によって取り組む計画っていうのが中に織り込まれてるんですけども、海陽あいあいクラブですね、隣町の牟岐町総合型クラブがないので、不定期ではありますけど、教室開催させていただいたりしてるんですね。その時に結果的にですね、まずは教室に通いたいっていう方が、けっこうクラブに入って下さって、町外から通われてるんですけども、クラブ内でもちょっと冗談ぽく、牟岐支店とか日和佐支店とかできたらいいよねっていうような話も、どうやったらいいのかなとか、どういうところの教室にしたらいいのかなとか、どこに言えばいいのかな、とかいう話が出たりすることもあるんです。

またちょっと別のことなんですけど、さっき委員がおっしゃってた、中学校の部活の事なんですけど、やっぱり単一中学校では、今も部員が揃わなくて、実際海陽町のバレー部では、宍喰中、海陽中、由岐中学校、野球部では宍喰中、海陽中、そして牟岐中学校合同で試合に出たりしてるんですね。単一市町村では試合に出れないというのが現状で、これは県南だけに限ったことではないんですけども、本当に、少子高齢過疎化が進んでますので、単一の市町村だけでは、何かするって、本当に厳しくなってるので。この12の施策の中では ちょっとどこに折り込まれるのかわからないんですけども、近隣の市町村が連携したスポーツ推進っていう柱をたした施策を早急に考えていただいたらいいんじゃないかなと思って提案させていただきました。以上です。

(事務局（スポーツ振興課長）)

ありがとうございます。委員の方からは、総合型の活動する中でお考えになられたことということで、3点いただいたわけでございます。

1 点目につきましては、オンラインスポーツがとても有効で、これを普及すべきということです。やはり多分、委員さんもお感じになられていらっしゃると思うんですけれども、なかなか各総合型クラブさんの中でも、非常に活用したい、活用しているところ、それから活用したいと思っているところと、逆にそうじゃないところの差っていうのがありますよ、ということで、そこを埋めていくような施策をとというようなことでなかろうかと思います。今お手元にご配布しております資料 1－5 ページをご覧くださいますと、こちらの 3－4 ですね、スポーツDX推進事業という事業がございます。内容で申しますと、新たな日常のもと、安全安心にスポーツに取り組むことができるようDXを活用した、持続可能なスポーツ環境整備するということでございます。

具体的に申しますと、まだ予算規模もかなり小さい事業でございます、先ほどご提案いただいたように、各クラブに機材を配布するということなところにはまでは至っていないという、試験的な事業ということにはなるんですけれども、ある程度の機材を購入した上で、コンテンツ、つまりスポーツの、例えばですけど体操の映像とか、それから、何か講師の方のセミナーでありますとか、そういう風なコンテンツを作成して、各総合型のクラブさんとかで、活用していただくための素地を作りましょうというような、テストケースの事業ということでございます。現在も、いくつかの総合型のクラブさんには、オンラインでの取り組みとこのをしていただいているところでございますが、それを今後、水平展開、それぞれのクラブさんでも採用していただくための、まずは機材を一つぐらい購入して、それでコンテンツを作ってみて、それを貸し出しをしていこうというような形で、さきほど委員からも頂きましたように、操作方法の習熟度か、それからオンラインの講座というのは、そんなに難しいものではないんですよ、というようなことを体感していただこうというような、意図も入った事業でございます。

またこれで、各クラブさんが、確かにオンラインでのスポーツっていうのはそんなに敷居が高いものじゃないんだな、というようなことが分かっていたら、またそれぞれが導入していただくこともできるのかなとも思いますし、またお声が大きいうであれば、我々としても、また次の展開っていうのも考えていかなければならないのかなというふうに、考えておるところではございますけど、まずテストケースっていうところで、緒に就いたばかりではございますけれども、我々といたしましてもオンラインスポーツの普及に取り組んでいるというところでございます。

2 番目に頂きました、若者、学生が、運動プログラムをとというようなこと。こちらの方もですね、やはりお話もあります、スクリーン上でという中で。やはり若者をたくさん現場に、特に南部とか西部とかに集めてというような形になりますと、こ

れまた敷居が高いイベントになって参ります。それも、やはりオンラインとかそういう風なのが、一つの解決策にもなっていくのかなと思いますし、それから後、またこれは教育委員会さんとか学校さんの取り組みの中の一つとして位置付けていただくというようなものもあるのかなとは思いますが、一つ一つ若者が参加しやすいような施策っていうのも、考えていきたいというふうに考えております。

合わせまして、近隣地域の連携が必要という事でいただいております。近隣クラブとの連携、また今クラブのないところでの活動っていうのを、大変重要な視点だと思っておりました。こちらにつきましては、また個別具体的な事例もあろうかと思っておりますので、我々といたしましても、総合型地域スポーツクラブの普及っていうのが、必要不可欠な命題だというふうに考えておまして、またご相談も頂きながら、解決方法を個別に測っていききたいなというふうに考えてございます。

いずれにしてもですね、やっぱりコロナ禍の中で、今までスポーツをされてきた方というのが、そんなにに出にくくなったという事実はあろうかと思っております。その一つの解というのが、オンラインスポーツではなかろうかと思っております。いっぱいの方の所には行きたくないけど、体は動かしたいよというような方のお手元に一人一人のお手元のところにまでスポーツ セミナーとかが行き渡れば、一番理想的なんではないのかなと思うんですけど、なかなか、お話もありましたように、色んな障壁があるのかなというふうに思っております、そこを埋めて行くような施策を、徐々にではありますけれども、取り組んでまいるところでございます。

このスポーツDX推進事業の運営につきましては、まだまだ空白と言うか、今計画段階でございまして、これから工夫もできると思っておりますので、またご意見頂戴しながら、このDX事業それから、その次の事業っていうのもご意見頂戴しながら、進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。以上でございます。

○委員

今のお二人の意見と一緒になんですけど、資料4の、今後5年間に総合的かつ計画的に取り組む12の施策というのがございます。皆さんいつもいろんなこと考えていただいて、こんなこともあるんだなって思うようなことを、大変考えていただいております。

この12の施策の中で、どこに力を入れてくれるのかなっていうのを、いつも感じますね。それぞれに大切なことなんですけれども、私は7番の、スポーツによる地方創生まちづくりっていうのが大切なんでないかな 思っております。

私たちの、三好の方は、もう本当に町の中に、小学校が二つしかありません。それと部落的にも、消滅集落、それから子どものいない集落が大変多いところござい

ます。ただ過疎化とコロナ禍の中で、大変皆さん疲弊しているんですけれども、あの吉野川のラフティングというもので、世界発信ができるようになっております。ただいま、ワールドマスタースゲームズも力を入れて、県と一緒に進んでおるんですが、とりあえず延期となりました、吉野川の上流で開催されるという形なので、当時もみんな頑張っただろうという風に待ち望んでいたんですが、どうしてもこのコロナ禍の疲弊の中で、いくつもあった会社が一つずつ減って 大変こういう厳しい状況でございますので、まずはスポーツによる地方創生と、街が元気になることが大切なんじゃないかなと思います。

先ほど意見もありましたように、もしも三好の方で、本当にやれる会社が二つか三つしかありませんってなった時に、やっぱり同じように、水の関係の海の方、南の方のカンパニーであるとか、南の方のいろんなスポーツをしている方、そういう方と一緒に連携をしていけたらなーと思っております。街と街がつながると、またちょっと新しい考えが出てきて、南の街と山の方の西が繋がると、ちょっと考えるとアドベンチャーレースができるなあとか、いろんなまたご意見とか考えが出てくるんじゃないかなと思います。アフターコロナには、どうしてもどこでも、自然のあるところに人が来てくれると思っております。そして、みんな自然の豊かな町は、何かを考えてるだろうと思います。この徳島県においても、大変素敵な自然がありますので、どうか地方創生を1に上げていただいて、皆が連携して、何か、徳島県はこんなことができますっていうのを出せて行けるようになったらなと思います。答えをいただくことではないんですけども、そういうことをこの施策を見て思いました。以上でございます。

◆事務局（スポーツ振興課長）

ありがとうございました。委員から、国のスポーツ基本計画中間報告案の3番、12の施策の中で、特にスポーツによる地方創生、それから街づくり、こちらの方に力を入れてほしいというようなことでございました。いただいたご意見、県のスポーツ推進計画を作る際には、本県は地方創生の旗を掲げて推進しているところでございますので、こちらの方を大事に推進していくような形での計画になるように策定していきたいと考えてございます。

それから、皆さんご意見頂戴いたしました、各委員の皆様からお声がありました言葉としての「連携」という言葉があったかと思います。地域、団体がそれぞれが連携して、今後スポーツにあたっていくというのが大事というご意見として、頂戴したという我々事務局の方でもは考えてございますので、新しい推進計画を策定するにあたってはこちらの方を大事にしていきたいと考えております。

以上でございます。ありがとうございました。

☆会長

事務局から何かありますか。

◆事務局

次期「徳島県スポーツ推進計画」策定スケジュールについて説明

閉会